

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

## 高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 185 号 (2025 年 9 月号)

# いずみ

仮会堂：高松市浜ノ町 60-78  
(日曜日のみ)  
Tel ; 070-2247-2181  
発行人 宮地 宏一



いつまで、この暑さが続くのでしょうか。暑さでなかなか疲れが取れませんね。

先月、初めていかだに乗りました。これが結構大変のです。仲間と息を合わせて漕がないと、



いかだはあらぬ方向に進んでしまいます。また運動不足の私は、すぐにヘトヘトになり、漕いでいるふりをしていたら、後ろの高校生から「水面をたたいていだけだと進みません」と叱られてしまったのです。息を合わせ、手を抜かずに歩む。人生での大切なことを教えてもらえた夏でした。

今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。 (2025.09.01)



### 迷走中ですが...

私は知らない土地に行くのが好きです。けれど、よく迷ったり、道を間違えます。特に、自動車での移動中、ナビを頼りに慎重に進んでいるつもりですが、一歩手前で曲がってしまったり、通り過ぎてしまったり。その度に、目的地までの到着が遅れてしまうのです。

また私は買い物も好きです。けれど何をどれだけ買ったら良いか、迷ってしまうことが多いのです。先日、旅行先で総勢 13 人の朝食をスーパーに買いに行ったのですが、何をどれだけ買えばよいか分からなくなりました。迷った末に、多めに買って帰ったら、「こんなに食べれるか!」と、みんなから突っ込まれてしまったのです。「いや〜一人っ子だったから、(大人数の食べる量が) 分からなくて…」と言い訳すると、「お〜い、何年大家族しているんだ〜」と再び突っ込まれました。



孔子は「四十にして惑わず」と語ったようですが、四十五にして私は迷走中。「これだ!」という強い確信が持てず、あっちにフラフラ、こっちにフラフラ。いつになったら「不惑」に到達するのやら。

私は幼いころから、こだわりが強い方ではありませんでした。だから強い意志をもって突き進んでいく人にあこがれていたのです。もっと自分の意見に自信をもつことができたなら良いのにな〜と思っていました。そんな自分の性格を思い巡らしていた時、私は自分が【何にでも染まり、何にも染まり切らない】タイプだと気づいたのです。

私は人の意見を聞くと「なるほど〜」と感心します。でも次に正反対の意見を聞くと、「へえ、そんな見方もあるのか」と納得するのです。その結果、何が正しいのか分からなくなり、迷ってしまいます。

でも一方で「これだ!」と強い確信をもって歩むことが、本当に正しいのだろうかという思いもあるのです。今、世界はどんどん不寛容になっています。お互いの違いを認めようとせず、多くの人の愛が冷え切っているのです。溝は深まるばかり。

先日、「教皇選挙」という映画を見ました。教皇が亡くなり、次の教皇を選ぶための人間模様が描かれていたのです。





神さまに仕えるために司祭となったはずの彼らが、**自らの権威**のため、主義主張を実現するために、教皇になろうと画策します。この過程を通して、人間の弱さ・愚かさが**露わになる**。そんな中で、教皇選挙（コンクラーベ）の責任者である主人公**ローレンス**が第一回目のコンクラーベの前に、次のような説教をします。

確信は、一致の最大の敵です。確信は、寛容の致命的な敵です。キリストも十字架上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と確信が持てず、午後3時に苦しみのうちに叫ばれました。私たちの信仰が生きているのは、疑いと手をたずさえて歩いているからです。

もし確信しかなく、何の疑いもなければ、ミステリー（神秘・奥義）は何もなくなるでしょう。そうすると信仰も必要なくなります。今、疑いを抱く教皇を、神さまが私たちに授けてくれるように祈りましょう。そして罪を犯しても、赦しを乞い求め続ける教皇を私たちに授けてくださいますように。

信仰を持つには、**強い確信**が必要だ。信仰を持ったら、疑いや迷いから完全に解放されると思っておられる方が多いかもしれません。けれど信仰を持っても私たちは**疑い**、迷ってしまうことがあるのです。また立派な聖人として生きられるわけでもありません。悪い思いが湧いてきたり、イライラすることもあるのです。他の人を**うらやましく**思ったり、ねたむことだってあります。神さまの愛が分からなくなり、悩み苦しんだりもするのです。このように私たちは常に**揺らいでいます**。

それは私たちが不完全で、不確かなものだからです。そんな私たちが**自分勝手な確信**を握りしめて進んだら、一致で



きず、不寛容になるのは当たり前。大切なのは「今、私はこのように考えているけど、それがすべてではない」と自分の考え・確信を**絶対視しない**ことですね。

また私たちの確信が揺らいでも、神さま、イエスさまの存在が揺らぐことは決してありません。イエスさまが**ご自分のいのちを懸けて愛してくださった愛**は、私たちの態度や信仰で変わることはないのです。神さまは私たちをいつも支え、疑い・迷う私たちを非難することなく、常に**あわれんで**くださいます。

そんな私たちに委ねられていることは、何でしょうか。ローレンスは説教の終わりに「**罪を犯しても、赦しを乞い求め続ける教皇を私たちに授けてくださるように**」と語りました。ここから、私たちに委ねられているのは、強い確信を持つて生きることではなく、**素直さと寛容さ**をもって生きることだと分かるのです。

年を重ねると、私たちは自らの悪・弱さがより鮮明になってきます。この悪・弱さを素直に認め、神さまに**赦し**を乞い求めるなら、神さまは私たちを赦してくださるのです。このように神さまの赦しを日々味わっていくなら、私たちは寛容な心で、**お互いの弱さ・違い**を受け入れあうことができるのではないのでしょうか。

もし私たちが自分の罪を告白するなら、  
神は**真実で正しい方**ですから、  
その罪を赦し、私たちを**すべての不義からきよめて**くださいます。

[聖書]



- **礼拝** 毎週日曜日 10:30~12:00
- **イズミン・キッズ** 毎週日曜日 9:30~10:20
- **おやこ de えほん** 毎週水曜日 10:30~12:00



\* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。